

学校運営協議会の運営状況について

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成19年度指定	東浅川小学校	10回 ①東浅川タイム ②読み聞かせ及びシルバークラブとの交流 ③夏楽校 ④授業参観・授業評価 ⑤登下校の見守り	①東浅川タイム ②読み聞かせ及びシルバークラブとの交流 ③夏楽校 ④授業参観・授業評価 ⑤登下校の見守り	①「東浅川タイム」において、漢字と計算の復習を繰り返すことで、前学年の学習がさらに定着した。 ②「読み聞かせ」や「シルバークラブとの交流」を通して、児童の心を育てることができた。 ③「夏楽校」を通して、命について考えることができた。 ④学校公開での授業参観・授業評価が、教師の授業力向上につながった。 ⑤保護者や地域の方に登下校の見守りを願うことで、児童の安全が確保された。	①これまで実施してきている内容については工夫、改善を加えながら引き続き実施していく。 ②地域運営学校としての本校のあり方をもう一度見つめ直し、将来、この浅川地域で生きる子どもたちに何ができるかをさらに考えていく会とする。
	第六中学校	10回 ①「真の学力」向上5カ年計画のうち3年目を迎え、六中生にとって身に付けるべき具体的な学力とその具現化策について協議した。 ②各種学校評価アンケートにおいてポイントの低い家庭学習に対する取り組みを検討した。 ③本校で求める具体的な「真の学力」の一つとして「地域に貢献する力」を位置付け、5年目を迎える地域総合防災訓練のあり方を検討した。	①中学生に求める「真の学力」について意見交換の実施 ②家庭学習に関する研究 ③学校運営協議会主催で第5回地域総合防災訓練の実施	①学校、保護者、地域の立場から中学生に求める「真の学力」について活発に意見交換を行い、質の高い授業を行うことにより進学などに関わる学力の他、いわゆる生きる力のうち課題解決力や問題に対応する力も重要であることが共通認識された。 ②家庭での自学自習の基本には効果的なノートの取り方があることが共通認識された。 ③学校運営協議会主催で第5回地域総合防災訓練を実施し、生徒300名超及び地域200名超の参加者があり、地域全体での取り組みとして定着した。	①「真の学力」については地域・保護者は得点力・成績面としてとらえる傾向が強く、生きる力の育成に関しては意識が低いため、三者が共通理解できるよう具体的な取り組みや広報活動が必要である。 ②得点力などの基礎的学力を定着させる方策として家庭学習をとらえ、学校評価アンケートでのポイントがあがる取り組みを推進する。 ③いわゆる発災型の訓練を展開し、大規模災害発生時に役立つ訓練内容を取り入れるなど、具体的な改善策が必要である。
	宮上中学校	13回 ①地域を活性化するための方法と、地域と学校をつなぐための方策 ②学校における地域活性化のための拠点づくり	①学校と地域の状況を報告しながら、地域と学校をつなぐための具体的な方策を協議した。その中で、地域行事や学校支援の具体策を取り組んだ。 ②次年度、学校提案型予算との関連を図り、「宮上ミュージアム」構想の中に、学校運営協議会が主体的に関わる体制を作った。	①地域行事を学校と連携して実施することができた。特に今年度は生徒会が地域行事の運営の一部として活躍し、地域の参加者と協力して実施することができた。また、代替教員が見つからない危機的状況の中で、地域で教育について活動していた人を紹介していただくことができた。 ②「宮上ミュージアム」構想の運営主体として学校運営協議会が関わる形で提案型予算をまとめ、市から採用していただくことになった。	①本校生徒会と学校運営協議会を介して、地域活動にさらに積極的に参加することができるようになることや、地域行事以外で中学生と高齢者など、地域に日中いる方との連携を図ること。 ②「宮上ミュージアム」の立ち上げについて、運営規定や地域の関わり方を定め、実際に運営を行うこと、支援ボランティアの募集と運営など実質的に活動する人を探し、運営をスタートすること。
平成20年度指定	陶鎔小学校	11回 ①TOYO ACTION5に関する協議 ②教員との協力連携体制に関する協議 ③学校評価などに関する協議 ④親子で参加できる企画(ナイトツアー・餅つき会)などに関する協議	①PTA総会時に学校運営協議会の説明とTOYO ACTION5の協力を呼び掛ける。 ②6月と12月に教員16名と学校運営協議会委員との話し合いを実施した。 ③学力向上の取組みの評価と、学校評価書の実態把握に活用した。 ④子どもの居場所分科会が開催する親子で参加できるナイトツアーや餅つき会を開催した。	①TOYO ACTION5の周知により、朝食を食べている児童や学校のことを話す児童は増えた。学力に関する関心は高まりつつあり、学校公開に毎回700名の参加があった。 ②学校運営協議会に対する教員の理解が進んだ。 ③1月に学校評価書を作成し、評価した内容を2月にまとめ、3月に平成29年度学校経営の素案を提示した。 ④今年度ナイトツアーと餅つき会をおやじの会を中心に実施し、ナイトツアー450名、餅つき会300名の参加があった。	①睡眠時間や学習用具の忘れ物などの課題があるため、TOYO ACTION5に「SNSの利用の注意」を追加して、TOYO ACTION6に改定し、さらに保護者・地域への浸透を図る。 ②教員のアンケートに学校運営協議会に協力していないとする教員がいる。地域運営学校の教員であるという自覚を促していく。また、地域のコーディネーターにお任せで、教員自身が地域に開こうとしない。どの教員でも授業の中で地域の教育力を活用できるよう人材バンクのデータ化を図る。 主幹教諭を中心に、管理職だけでなく学校教育の状況を伝えていく主体者に育成する。 子どもの居場所分科会の行事に参加する教員をさらに増やし、行事の中で役割の一端を担えるよう事前準備をする。 ③平成28年度の学校評価書を作成し次年度の改善に生かす。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	浅川小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の学校経営計画に関する協議</li> <li>各部の活動内容に関する協議</li> <li>学校予算・決算に関する協議</li> <li>学校支援に関する協議</li> <li>創立70周年記念行事に関する協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あさかわ支援の会による教育支援ボランティア活動</li> <li>部活動支援プロジェクト</li> <li>学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施・集計・分析・提言</li> <li>協議会だよりの発行</li> <li>SNS学校ルール策定に向けての学校支援</li> <li>青少対・PTA・教職員・生徒会と連携した年3回の小中合同あいさつ運動</li> <li>学校林くりやまを活用した食育授業や環境学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方が毎日来校する学校になって、大人の目が行き届くようになっている。</li> <li>学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施することで客観性が保たれ、学校改善が進む。</li> <li>学校の状況や情報が地域に浸透している。</li> <li>地域の諸団体との連携力が強まっている。</li> <li>学校運営協議会委員の協力で周年行事準備が円滑に進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の委員後継者を育成する。</li> <li>担当教職員以外の教職員の理解を深める。</li> <li>活動がマンネリ化しないように常に改善を求め協議・実践していく。</li> <li>2年間傍聴者がゼロであったので、傍聴者が増えるようPRや啓発活動を推進していく。</li> </ul>
	元八王子中学校	8回	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域ボランティアの発掘</li> <li>検定試験(国語・数学・英語の検定を計9回)の実施</li> <li>防災活動の地域との連携</li> <li>保護者・地域向けの学校運営協議会便りの年3回発行</li> <li>学校運営協議会とPTA役員との懇談会や教員との懇談会、生徒会との交流会の実施</li> <li>各行事や学校公開時への参加及び授業参観</li> <li>投書箱の活用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学生のボランティアを見つけるために、近くの大学にお願いしたりする。学力向上に向けて、保護者への啓発活動を充実させる。</li> <li>検定実施の支援ボランティアを見つけるために、地域への呼びかけを行う。</li> <li>災害対策を含め、学校と地域との共通理解を深める。</li> <li>投書箱の活用や保護者とのコミュニケーションがはじめ防止につながる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒の数学の補習学習がスムーズにでき、参加者の学力が向上した。</li> <li>検定を9回実施し、延べ150名以上の小学生や大人が参加した。特に数学科では、授業の中で数検の問題を活用した。また、生徒に学習に対する意識を高めることができた。</li> <li>交流会を通して、生徒の思いを理解することができた。</li> <li>授業を参観することや、交流会での情報交換を通して、生徒についての情報を共有したり、教職員の思いを理解したりできた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>保護者に家庭学習の重要性についての啓発活動を行う。学力向上の学習支援を大学生にお願いし、生徒が学習習慣を定着するように学習に取り組む環境を整える。</li> <li>地域との懇談会を定期的に行い、学校運営協議会便りを発行するとともに、PTAに投書箱の活用を呼びかけ、支援ボランティアを見つける。</li> <li>災害対策を含め、学校と地域との協力した活動を開催し、地域との共通理解を深めていく。</li> <li>学校からいじめ問題をなくすために、投書箱の設置についてPRしていく。</li> </ol>
	城山中学校	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校の公開行事(合唱祭、長唄教室、吹奏楽部定期演奏会など)への多数の地域住民の参加</li> <li>問題行動、特に不登校生徒の保護者と担任・校長先生が学校復帰を促すために情報の共有</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事のチラシを地域に配布するタイミングを早めたため多数の住民が参加した。</li> <li>生活指導主任や担任と情報を共有し連携して本人・保護者に対応した結果、不登校生徒は修学旅行やスキー教室には全員が参加した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>公開行事では学校運営協議会でもチラシを町会・自治会に配布した結果、地域の方も多数参加し盛大であった。学校運営協議会では地域から募金をつのり吹奏楽部演奏会、卒業式の会場に花鉢を購入して飾って雰囲気盛り上げた。この花鉢は入学式にも活用される。</li> <li>担任と情報を共有し連携しながら必要に応じて本人・保護者に対応した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事のチラシの配布時期を余裕をもって開催日の30日前に配布する。</li> <li>不登校生徒の保護者と、個人情報に配慮しながら必要に応じて校長先生、担任と相談し慎重に対応する。</li> </ol>
平成21年度指定	桐田小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の活動を地域住民に広く周知し、活動者を増やす。(1年給食補助・プール見守り・学校安全ボランティア・漢字検定ボランティアなど)</li> <li>学校運営協議会事務局(教員)を増員し、全教職員の学校運営協議会への関わりを深め、参画意識の向上を図る。また、地域行事への教職員・児童の参加率を向上させる。</li> <li>学校・地域共同防災訓練実施において、地域協働を働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が桐田小代表として、地域行事に参加する機会を設ける。(町会の祭、青少対祭など)</li> <li>漢字検定試験を実施し、児童の学習意欲を高め、基礎学力向上につなげる。</li> <li>学校便り、学校運営協議会便り、HPなどを活用し、地域運営学校の趣旨や活動内容について積極的に周知する。</li> <li>学校運営協議会委員による校内研究授業参観や学校公開授業参観を実施する。</li> <li>9月17日(土)午後に学校・地域共同防災訓練を実施する。(消防署とともに、地域消防団にも参加してもらう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の1学期当初における給食補助、プールの見守り、支援を要する児童の学習補助など、日常の教育活動での関わりが増え、地域住民の参加率が増えた。</li> <li>漢字検定ボランティアを保護者中心に募集し、6名の保護者が参加した。また、昨年度より、受検数も40名増加した。(受検率49.7%)(合格率89.4%…4.2%増、奨励賞を受賞)</li> <li>青少対地域清掃参加率が大幅に増加した。(3月実施…児童、教職員100名以上参加)</li> <li>毎月の学校運営協議会へ参加することにより、学校運営の核となる教員が、地域の声を直接知ることができ、日常の教育活動実践の工夫につながった。また、全教員が全体会に参加することで、地域の要望、学校からの要望(協力依頼など)を互いに知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の見直しを図り、幅広い地域住民の声を教育活動に反映させる学校運営協議会にしていく。また、学校安全ボランティアだけでなく、種々のボランティアを、保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を、教育活動を通して具体化する。</li> <li>取り組みに対する広報活動の充実を図る。(各自治会へのパンフレット配布など)</li> <li>毎月の学校運営協議会への参加教員を見直し、参画意識を高める。全体会での学校職員の役割を明確化する。</li> <li>防災訓練の毎年開催に向けた準備をする。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成21年度指定	中山小学校	12回	①学校運営協議会委員全員を中心に、学校環境の整備を行う。 ②中山中学校区の3校で、3校合同学校運営協議会を学期ごとに開く。また、小中一貫教育として、学校公開日に小中合同で地域の専門家を招き、地域交流講座を開く。	①季節ごとに花壇の花を植え替え、「花いっぱい」を印象づけることができた。また、ビオトープの水藻を定期的に取り、児童の観察に適切な環境を維持することができた。 ②防災・安全地域マップを3校が協力して作成し、各教室に掲示することができた。また、地域交流講座では、児童・生徒が交流しながら体験学習を行い、好評を得た。	①学校運営協議会委員を中心に、広く協力を呼びかける。また、学校ホームページに地域のページを作り、広報活動に力を入れる。 ②教員のさらなる意識の向上が必要である。また、地域交流講座の準備において、教員一人ひとりが主体的に関われるようにしたい。
	宮上小学校	11回	①教職員と学校運営協議会との連携を深めるために学校運営協議会だけでなく、学校の日常の姿を見るために学校行事などへ積極的に参加し、紙媒体での協議だけでなく、実際の学校の様子を観る事で、児童や教職員の日常の様子を見て、学校運営協議会に活かして協議を行った。 ②学校運営協議会の活動を啓発するための更なる情報発信の方法	①保護者や地域住民が登校時に関わることで、児童の心の拠りどころとなり、必要に応じて児童の様子を教職員と共有出来た。 学校行事(運動会、体力測定、道徳地区公開講座、ふれあい給食、危険マップ作りなど)への積極的な参加と管理職以外の教職員との交流会を開催することで情報共有の努力をした。 教職員と学校運営協議会委員との交流の場を設け、情報交換を行うことが出来た。 ②4月の全体保護者会にて、学校運営協議会の活動内容について会長・副会長が説明を行った。「学校運営協議会便り」を学校運営協議会開催日に併せて、議事及び学校の様子を掲載することで、学校運営協議会の活動について啓発を行った。	①積極的に学校行事へ参加し、管理職以外の教職員との連携をより強化する。 管理職以外の教諭との情報共有には努力しているが、その機会が現状ではそれほど多くない。 ②保護者会や地域の催事にも学校運営協議会委員が積極的に参加し、学校運営協議会の具体的な活動を広報する。今後も、「学校運営協議会便り」など、学校運営協議会の活動を啓発する。 学校運営協議会委員公募も実施しているが、保護者や地域住民からの積極的な委員としての応募が少ない。併せて、学校運営協議会の傍聴者も少ない。
	下柚木小学校	12回	①一時は存続が危ぶまれた「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の持続的・安定的な運営に向けた組織づくりをいかに構築することができるか。 ②本校の特色である学校林の整備・活用のために、可能な限りボランティアの組織化を図るとともに、他方で「東京都産業労働局」などからの支援をいかに有効活用するか。 ③ニュータウンという思い込みから、「コミュニティ・スクール」の構成員である、とこれまで考えていなかったシニア世代が意外に多いことを知り、シニア世代の参加をどのように促すか。 ④「地区班担当委員会」と今後どのような形でさらなる連携を構築するか。	①「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の活動継続の意義を在校生の保護者の方に説明した。 ②講師をお招きし、またボランティアの協力を得て、学校林を使って秘密基地づくりなど体験的環境学習を実施することで、子どもたちの学びの可能性を広げるための活動を具体的にいった。 ③地域代表の委員であるシニア世代の委員の方を講師に招いて、「昔と今の遊び」をテーマに、子どもたちとのトーク・ディスカッションを行っていただいた。 ④「地区班担当委員会」と合同の『拡大学校運営協議会』を開催することで、連携構築を図るとともに、地域の民生委員の方々にも学校運営協議会に参加していただいた。	①「学力向上委員会」や「学校図書館推進委員会」の活動は、安定的な活動が行われているので、今後は仮に活動の中心的なメンバーの交代があったとしても、継続的な活動を可能にするための一定のノウハウづくりが必要になる。他方で、「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の委員を確保することは必ずしも容易ではない。今後は、各委員会のメンバーを偏りなく、安定的かつ継続的に確保していくための取り組みが必要になると思われる。 ②本校の特徴である学校林を「体験的環境学習」の場として有効活用していくためには、一定の「予算」が必要である。そのような予算をどのように継続的に確保していくか。そもそも学校教育法第5条の「学校の設置者負担」主義の原則に則った予算措置ができないものか。 ③地域代表のシニア世代の委員が、地域のシニア世代の方々との交流の場として今年度「サロン」を開設して下さった。従って、「コミュニティ・スクール」として、「サロン」と学校運営協議会との連携をいかに図っていくかは今後の課題である。 ④「地区班担当委員会」とさらなる連携を図るために、いかなる活動をするができるか課題である。
	第一中学校	11回	①「生徒及び保護者からの教育活動アンケート」を前期と後期に行い、数値の経年変化の様子や各項目の内容を分析し、具体的な進言を行った。 ②第4回学校と地域が連携した総合防災訓練は、平成28年度から実行委員会形式に改めて学校運営協議会会長を実行委員長として実施した。また、PTAや実行委員を中心にして「保護者・地域参加のプログラム」を新たに始めた。	①「生徒及び保護者からの教育活動アンケート」は、単年度の数値を分析するだけでなく、当該生徒や保護者の過去1～2年間の経年変化を示し、現状分析を深めて、改善策を教職員に提示した。特に、保護者の自由意見を丁寧に確認し、教職員に助言を行った。 ②学校運営協議会委員を「企画評価部会」、「学校支援部会」、「学校周年行事検討部会」に分けて担当した。企画評価部会は、前期・後期の「生徒及び保護者からの教育活動アンケート」の実施、分析と考察、公表などを担当した。学校支援部会は、総合防災訓練の実施に向けて、関係機関との連絡・調整などを担当した。学校周年行事検討部会は、創立70周年記念事業の実施に向け、式典の実施や記念誌編集の企画などを担当した。	①「生徒及び保護者からの教育活動アンケート」では、経年変化の様子を比較分析し、現在の生徒の特徴などを幅広く見つめることができた。保護者からは、本年度も50件以上の意見や質問、要望が寄せられ、一つ一つを丁寧に確認し、学校経営に対して適切な助言を行うことができた。また、生徒と学校運営協議会委員の懇談会を3月に行い、生徒代表から生の意見を聞き取り、学校の現状に対する認識を深めることができた。 ②総合防災訓練実行委員会の企画・運営を学校支援部会が担い、適切な運営を行った。また、学校周年行事検討部会では、記念式典の実施計画や記念誌編集計画をまとめることができ、具体的な作業を始めることができた。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成21年度指定	11回	①地域の教育力を活用した教育活動の展開 ②生徒の進路選択に関して、学校運営協議会として支援の実施	①学校運営協議会委員を講師とした道徳授業の実施 ②教員と学校運営協議会委員が連携した中学3年生に対する面接指導	①“郷土愛”をテーマに、長年、学校がある地域でボランティア活動などに熱心に取り組んできた学校運営協議会委員を講師として、地域の歴史や学校と地域のつながりについて、自作の資料を基に道徳の授業を実施した。生徒は、地域にいなながらも気づくことのなかった地域の伝統や素晴らしさに触れ、地元を愛する気持ちを育むことができ、大変に有意義な機会となった。 ②生徒が、教員以外の人物と面接をすることにより、緊張感を持って面接指導を受けることができ、進路の選択に有益であった。 教員と学校運営協議会委員が協力して面接指導を行うことを通し、共同で学校づくりを進めるための意識を醸成することができた。	①市制100年を迎える、平成29年も同じテーマで、学校運営協議会と連携し、郷土愛を育む授業を実施したい。課題は、講師の資料作りに多くの時間を要することである。 ②教員と面接を担当する学校運営協議会委員との事前打合せの時間の確保が課題である。(特に、面接項目の選定や、役割分担、採点基準の確認など)
	11回	①地域と連携した防災訓練 緊急時飲料水(児童用)の確保については、校舎内各階教師コーナーなど、保管場所の検討 9月の町会防災訓練への参加については、児童の実態を見て検討 ②学習ボランティアやゲストティーチャーの確保 低、中学年を中心に各学級に入れるよう人的配置を検討 ③地域運営学校事務局の発足 ④七小ガーディアン(見守り隊)の募集と活動	①緊急時飲料水(児童用)の確保、費用負担 ②学習ボランティアやゲストティーチャーの確保 ③地域運営学校事務局の発足 ④七小ガーディアン(見守り隊)の募集と活動	①校舎内各階教師コーナーなど、保管場所及び費用負担について検討し、PTAと連携を図り、次年度具体的に整備していく。 ②「七小応援団」として人材バンクを整備する。 ③2階会議室を「地域運営学校事務局」の活動拠点とし、学校運営協議会委員が常駐できるよう、書類ケース、活動引き継ぎファイルなどを整備した。 ④地域の育成指導委員や青少対委員、民生児童委員の方々に、七小ガーディアン(見守り隊)として、校内を巡回し、生活指導の安定を果たすことができた。	①PTAとの連携による費用負担の整備 ②報告書など引き継ぎの在り方について検討していく。 人材バンクの整備(学校コーディネーターとの連携) 学校運営協議会への出席依頼の整備 ③地域運営学校組織の定着(3部会)と活動の充実 環境整備としては、屋上庭園の整備、校庭一部芝生化の環境整備 事務局環境整備としては事務机、定例会など ④七小ガーディアン(見守り隊)の拡充
平成22年度指定	11回	①平成27年度に継続し、発達段階に応じて4種類の「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を作成し、ラミネート加工し、家庭で掲示できるように配付する。(小1、小3、小5、中1) ②漢字検定の実施 ③蛍の観察会の実施 ④学校保健委員会への参加 ⑤自己評価表を委員に公開し、評価を得る。	①発達段階に応じた「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を家庭に掲示できるようにし、各家庭の教育力を高める一助とする。 ②漢字検定の実施 ③蛍の観察会の実施 ④学校保健委員会に学校運営協議会委員の参加を依頼し、昨年まで2回だったものを3回に増やし、学校の保健指導の取り組みを公開する。 ⑤教育目標への取り組みを振り返り、教職員の自己評価表を公表し、それを基に学校関係者評価を作成する。	①発達段階に応じた「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を家庭に掲示できるようにし、各家庭の教育力を高める一助となった。 ②漢字検定の申請は、昨年度より多く65名で、漢字学習への意欲は児童・生徒・地域と高まっている。 ③蛍の観察会を実施でき、地域理解の一助となった。 ④年間3回の学校保健委員会を開催したことで、学校保健の取り組みや保健指導の課題を学校運営協議会委員、保護者、地域で共有することができた。 ⑤自己評価表を学校運営協議会委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識を高めた。	①家庭の学校に対する関心が薄く、学校公開や授業参観への参加率が低い。基本的な生活習慣や学習習慣が身に付けるために、学校運営協議会から家庭へ更に発信を工夫し、手立てを考えたい。 ②漢字検定の参加意欲を更に高めていく。 ③地域を知る活動(蛍の観察会、昔話の会)を計画し、地域理解を深める。
	9回	・学校経営計画の承認及び経営計画に基づいた各取り組みについての計画及び実施後の報告 ・教育活動アンケート(保護者アンケート)への対応、改善策 ・人事構想	・中学部1年生による「スクールファーム」の活動の支援および畑の管理 ・「加住ふれあいコミュニティ」でのお年寄りの活動と児童・生徒との交流活動の推進 ・学校運営協議会主催の「親子料理教室」の開催 ・加住地区町会自治会連合会や加住地区住民協議会との連携による夏季休業中におけるサタデースクールへの協力 ・学校運営協議会委員による職員会議や研修会への参加	・総合的な学習の時間の一つの柱としての活動として実施することで、生徒の体験的な学習を支援することができた。 ・学校コーディネーターの活用を推進し、地域のコミュニティとしての機能を充実させることができた。 ・食育の一環として位置づけ、学校栄養士の協力も得て、児童及び保護者に望ましい食の在り方について学ぶ機会を提供できた。 ・地域の諸団体との連携を深め、地域運営学校として地域の人材を教育活動の中で有効に活用することができた。 ・学校運営協議会の委員が職員会議や研修会に参加することで、学校の課題や課題に対する取り組みの状況、教員の取り組みなどに対する理解が深まった。	・委員の委任 平成29年度は地域運営学校として8年目を迎える。現在の学校運営協議会委員9名の内、3名は地域の関係諸団体代表としての位置づけで委員を引き受けてくださっているが、今後も引き続き学校運営協議会委員を引き受けていただけるか。 ・学校コーディネーターの位置づけ・活用 理想としては、学校運営協議会のコーディネートの下、学校コーディネーターを活用した事業(土曜の補習学習、漢字検定、算数・数学検定、英語検定など)を展開させたいが、学校運営協議会委員の皆様も学校コーディネーターの方も多忙であり、新たな事業に取り組むことが難しい状況である。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	愛宕小学校	10回	①子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるためには、自己肯定感を高める必要があると考えた。学校アンケートに見る、児童が抱く低めの自己肯定感を高めるための工夫を地域として何ができるのか協議した。学校運営協議会委員だけでなく、学校を取り巻く人たちの協力により、まず自己を大切に、社会への適応力を身に付け「生きる力」を育むようにする。 ②学校でのニーズを発信することにより、地域から協力者を得ることができる。その協力者が子どもたちと直接関わる事により、やりがいを感じたり、子どもを見る目線を子どもと同じ高さに保つことができると、地域全体での子育てを見守る力を向上させる。	①保護者が保護者同士、又は学校や教員と連携できる場をいくつも用意してある。図書室管理ボランティア、読み聞かせボランティア、さくらの会(保護者の悩み相談会)、授業サポートボランティアなど。 ②学校運営協議会の中に、いくつかの実行委員会が存在し、それぞれに活動を行っている。漢字検定実行委員会、愛宕Camp実行委員会、放課後子ども教室推進委員会、図書ボランティア、HP作成チーム、各種講演会、各種ボランティアの受け入れ。	①学校運営協議会には元PTA会長が数名いるため、現役のPTA会長はPTAの運営についての相談ができ、本部役員になっても不安を抱いたままの運営をせずに進行する事ができる。 ②各実行委員会の活動により、目に見える成果が表れている。 ・愛宕Camp→パパ同士が繋がり、音楽チーム(青少対の音楽フェスティバルに参加)、HP作成チーム(運営協議会専用HPを作成中)、愛宕の畑作成中(愛宕Campで有機野菜の試食) ・漢字検定→中学校に上がる前に漢字勉強に興味を持って取り組む事で、高校への入試に向けた準備ができる。 ・放課後子ども教室→地域の方や大学生ボランティアの参加によって、お手玉、将棋やジャグリングなどに、ますます興味を持って取り組むようになった。	地域を巻き込んだ各種実働組織(防災訓練の共同実施や放課後子ども教室の先生としての協力、授業内講師など)を展開するとともに、子どもの安全を守る取り組みなどを通じた地域ネットワークの構築や、学校情報のより積極的な発信を続けることによって、地域が潜在的に持っている教育力を、学校運営全般に関わることにとどまらず、具体的な教育活動において発揮してもらうことなどの効果が期待される。また、運動会のサポート、漢字検定試験のサポートなどを自主的に協力する保護者が増えることにより、「自分は学校の為になっている」という体感が広まり、学校への理解が深まる効果があると考えられる。
	浅川中学校	11回	・校長の学校経営計画に関する協議 ・各部の活動内容に関する協議 ・学校予算・決算に関する協議 ・学校支援に関する協議 ・創立70周年記念行事に関する協議	・あさかわ支援の会による教育支援ボランティア活動 ・部活動支援プロジェクト ・学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施・集計・分析・提言 ・学校運営協議会便りの発行 ・SNS学校ルール策定に向けての学校支援 ・青少対・PTA・教職員・生徒会と連携した年3回の小中合同あいさつ運動 ・学校林くりやまを活用した食育授業や環境学習	・地域の方が毎日来校する学校になって、大人の目が行き届くようになっていく。 ・学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施することで客観性が保たれ、学校改善が進む。 ・学校の状況や情報が地域に浸透している。 ・地域の諸団体との連携力が強まっている。 ・学校運営協議会委員の協力で周年行事準備が円滑に進んでいる。	・学校運営協議会委員の後継者を育成する。 ・担当教職員以外の教職員の理解を深める。 ・活動がマンネリ化しないように常に改善を求め協議・実践していく。 ・市教育委員会を含め、2年間傍聴者がゼロであったので、傍聴者が増えるようPRや啓発活動を推進していく。
	松木中学校	12回 (うち3校合同3回)	①地域祭りである『浄瑠璃祭り』 ②地域防災会議の開催や地域・学校との合同防災訓練の実施 ③夏季休暇及び放課後の学習教室 ④学校運営協議会便りの各学期発行 ⑤教職員との面談による聞き取りや人事についての話し合い ⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施 ⑦特別支援教育及びLGBTについての勉強会 ⑧3校合同での学校視察 ⑨英検・漢検・数検の実施	①地域祭りである『浄瑠璃祭り』 ②地域防災会議の開催や地域・学校との合同防災訓練の実施 ③夏季休暇及び放課後の学習教室 ④学校運営協議会便りの各学期発行 ⑤教職員との面談による聞き取りや人事についての話し合い ⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施 ⑦特別支援教育及びLGBTについての勉強会 ⑧3校合同での学校視察 ⑨英検・漢検・数検の実施	①『浄瑠璃祭り』では警察・消防の参加で地域や学校・保護者の連携強化が今まで以上に強くなったと感じられる。ボランティア生徒の参加も年毎に増加している。 ②防災活動も地域の方々の主導で進められる体制になった。 ③放課後学習教室も5教科で実施でき、生徒の学力向上に寄与した。 ④学校運営協議会便りの発行により、保護者や地域に広報活動ができた。 ⑤教職員と協議会の面談で職員室の様子や新年度人事の参考となった。 ⑥学校運営協議会による保護者アンケートで周知されていない現状や先生方の様子がわかった。 ⑦性的マイノリティの理解を教職員と学校運営協議会委員で確認する。 ⑧聖パウロ学園高等学校・エンカレッジコースの見学を通し、貴重な視察を経験できた。 ⑨各種検定は申し込み人数も増加し、生徒の学力向上に寄与している。	①『浄瑠璃祭り』の発展に向けた、組織及び運営方法を改善する。 ②松木小・長池小との広域防災訓練へ向けての連携と組織を作る。 ③学習教室講師の増員や地域支援スタッフの増員、安定的な確保と質の向上が必要となる。 ④学校運営協議会便りで活動の周知や地域支援スタッフの募集などの告知も必要となる。 ⑤平成29年度人事については遺憾である。何のための学校運営協議会か疑問を抱いた。 ⑥学校運営協議会による保護者アンケートの内容を精査し、学校運営の参考としていきたい。 ⑦性的マイノリティについては今後大きな壁となり、課題でもある。 ⑧⑨学校視察や各種検定についても実施していく。地域支援スタッフの増員も必要となる。地域コミュニティを強化し、人材の育成や人材の確保も必要となる。
	長房小学校	12回	①学校運営協議会が関わる行事「地域夏祭り(盆踊り)」「CS子ども夏祭り」「算数教室」「人形劇」「川の学習」「道徳授業地区公開講座」「子ども祭り」「三校地域交流会」「焼き芋」「どんぐり笛づくり」「昔遊び」について協議した。 ②長房ファームでの野菜作りや出店計画と準備について協議した。	①地域・保護者・学校との連携をさらに密にして、スムーズな企画運営を図る。 ②畑ボランティアの参加人数確保、ボランティアの予算を十分に確保する。	①各行事では、地域・保護者・学校がしっかりと連携した取り組みが実施できた。地域夏祭りやCS子ども夏祭り、算数教室など児童の参加人数が増加した。 ②地域の夏祭りに学校運営協議会として出店し、広報活動につなげた。広報誌「山椒」を年4回発行し、地域内にも配布した。長房ファームで収穫した「ネギ、ジャガイモ、ダイコン、サトイモ、カボチャ、サツマイモ、タマネギ、ニンジン、ニンニク」などの野菜を給食の食材として提供できた。	①これまでの連携した取り組みを教職員の異動があっても、継続実施できるように資料を作成していく。顔の見える連携を目指して今後の活動を行う。 ②保護者の参加が増えており、地域・学校・保護者がつながる場として今後も連携して取り組んでいく。
平成23年度指定						

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	柏木小学校	11回	①学校と地域の距離感を縮め、地域の人材を発掘し、子どもの学力と生活の両面を組織的に支えていくことができるようにしていく。 ②「学校の役割」「地域の役割」「家庭の役割」を明らかにし、子どもの学力と生活の両面を組織的に支えていくことができるようにしていく。	①地域人材の一定の発掘に成功し、学校に対する今後の協力を取り付けることができた。 ②学校運営協議会が中心になって、子どもたちを見守る体制づくりができた。	①学校を核とした地域創生、次世代育成という視点からの活動の位置づけ、価値づけを進めていく。 ②活動のための裏づけとしての予算や時間、場所や人材の安定的な確保について計画的に進めていく。	
	南大沢小学校	10回	①学校の問題・課題を教職員と学校運営協議会委員や学校評議員がともに話し、考える場を設定し、学校ではどんな支援を必要としているか、必要な支援に学校運営協議会委員がどのように応えていくかを明らかにしていく。 ②児童減少に対して、学校についての広報活動をいかに活発にしていくか。八王子市の施策としての小中一貫校への移行について、どう対応していくか。 ③学校運営協議会委員と学校コーディネーターが中心となり、地域住民などの教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携して教育的人材開発を行う。	①地域連携の重要性、学校を核とした地域づくりをする意識の向上、学校を地域のものとする考え方の浸透、地域内及び学校と地域の連携強化を実現する方法としての学校園の活用を工夫する。 ②児童の郷土愛が生まれ、学校や地域に愛着をもてるようになり、地域の方の教えを得ることで、児童が地域の一員としての自覚をもつ。地域の方をゲストティーチャーとして招き、戦争体験を聞いたり、地域の昔遊びや稲作に関わる様々な体験活動を実施する。学校運営協議会委員が、学校説明会・新1年生保護者説明会で学校の魅力を紹介する。	①教員から直接教育活動に必要な地域の教育的人材について聞き取り、地域の組織などにも働きかけ、人材を紹介してもらい、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして学校に関わってもらった結果、行事を含めた教育活動に関わってくれる方が多くなった。 ②児童数の減少傾向が進む中、近い将来小学校へ入学する児童やその保護者に対して、学校運営協議会や地域から見た学校の魅力を学校運営協議会が発信することで、学校自身が発する情報では理解しきれない本校の魅力を知らせた結果、学区内に住む学齢児童のほとんどが、本校への入学の意思を示してくれた。更に、学区外からの入学希望者も出てきた。	①学校運営協議会委員と学校コーディネーターが中心となり地域住民などの教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携しての教育的人材開発を行う。 ②取組状況や学校の魅力・放課後の児童の受け皿について、未就学児の保護者を中心に多くの人に発信することで、小規模校での学校教育の利点を理解してもらい、児童減少傾向に対応する。ホームページや広報誌などを活用したり、学校運営協議会委員が学校説明会・新1年生保護者説明会で学校の魅力を紹介していく。 ③引き続き、教職員が学校運営協議会委員と話し合う場を設け、学校の課題を共有した上で、地域の教育的資源の発掘と学校教育への参画を促進する。
	松木小学校	11回	①中学校区3校・保護者・地域連携 ②学びの支援及び人材の確保と実働支援組織の立ち上げ ③多摩ニュータウン地域運営学校協議会の周知	①3校合同学校運営協議会主催の「浄瑠璃祭り」は、PTAや各町会・自治会、各種団体などと連携した。 ②漢字検定や放課後学習・夏休み学習会の実施、授業支援やゲストティーチャー、特別支援などのボランティアが活動した。 ③多摩ニュータウン地域運営学校協議会を周知する。	①3校合同学校運営協議会主催の「浄瑠璃祭り」は、PTAや各町会・自治会、各種団体などと連携しスムーズな運営ができてきた。PTAまつぎ会との合同協議会や傍聴者の呼びかけを行い、情報共有・交換が図れるようにした。防災関係では避難所運営会が自主的に活動できるようになってきた。3校の中でも進んだ活動をしており、これを手本に、3校で同じように防災に取り組めるように啓発したい。 ②漢字検定を年2回実施、放課後学習・夏休み学習会を実施、授業支援やゲストティーチャー、特別支援などボランティアが年間で述べ1,500名以上が活動、保護者地域を中心に活動する機会が増えた。 ③通信を2号発行し、活動内容やボランティアの声を掲載、地域へ配布し啓発に努めた。	①3校合同・PTAまつぎ会合同の学校運営協議会を継続して行う。保護者枠委員はPTA会長としているが、必ず参加できるとは限らないので弾力的に考える必要がある。また、学校運営協議会委員が6年間で半数以上が固定化し、入れ替えの必要性もあるが、一方で適任者の確保が困難であるため、人材発掘する仕組みをつくるのが急務である。 ②担当職員と授業や行事など年間計画で支援ボランティアの予定を立てる。支援の流れをスムーズにするため、コーディネーター窓口一本化をさらに周知徹底する。学校運営協議会委員が実働的な活動を行ってきたが、限界があるので、今後人材の拡充が必須である。継続的な活動ができるよう、あらゆる人材の確保や3校で人材の共有、地域団体(塾)への声かけも行う。 ③計画的な広報誌作成に努める。学校運営協議会の取り組みを周知するために編集担当者や広報専門担当者の確保に努める。
	長池小学校	12回	学校行事の整理。新しい指導要領の改訂に伴い、ますます授業時間の確保が求められる。学校行事の意義を確認しつつ、授業時間のバランスをどう図るかを協議した。	11月に「ながいけ歌のコンサート」を開催したが、合唱祭に留まらない、他の教科での学習ともからめた味わい深いものとなった。 1月に「ながいけギャラリー」を開催したが、図工・家庭科作品、書写などを廊下や多目的室に展示した。こちらも図工の狭い意味での作品展ではなく、他の教科の学習の発表会となる工夫がみられた。	学習成果を見せる行事から学習過程をみってもらう行事に転換したことで、子どもたちの成長がわかる行事となった。 行事にかかる時間を整理し、授業時間の確保をめざす。	「ながいけ歌のコンサート」、「ながいけギャラリー」において、他の教科の学習成果を盛り込むさらなる工夫を期待したい。国語の朗読、群読、手話、ダンスの取り込み、総合的な学習の成果の反映など様々な取り組みを模索してほしい。また、「子どもは行事を通して成長する」と言われるように行事の持つ意義は大きい。授業時間の確保を目指すことは大切であるが、両者のバランスを十分に取りながら進めたい。 現在の学校運営協議会は「熟議」を中心にした議論を展開し、学校の行ったことについて検証するということを繰り返している。それ自体は学校運営協議会の第一義的任務である。しかし、さらに発展して学校をサポートする学校運営協議会が主催する活動が求められている。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	南大沢中学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営の状況についての説明、校長の意見聴取、委員からの助言など</li> <li>・おはようコミュニケーション係、しゃべってみよう係、コミュニケーション通信係からの連絡・報告</li> <li>・人事に関する意見聴取</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3校(柏木小・南大沢小・南大沢中)の学校運営協議会が連携し、おはようコミュニケーション、しゃべってみよう、コミュニケーション通信の充実</li> <li>・学校の教育活動を地域に知ってもらうため、学校便りの地域への配布</li> <li>・学生ボランティアなど学校教育を支援する人材の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはようコミュニケーション、しゃべってみよう、コミュニケーション通信の発行では、前年度の改善点を踏まえ新しい取り組みを行った。</li> <li>・おはようコミュニケーションはのぼり旗を作成して地域に立て、地域の方の意識を高める取り組みを行った。</li> <li>・しゃべってみようは、南大沢中生と地域の方が、「よりよい地域づくり」について話し合う機会を作った。</li> <li>・コミュニケーション通信は、3校で分担する仕組みとして行った。</li> <li>・学校の教育活動を地域に知ってもらうため、学校便りを地域に配布することができた。地域の方から学校便りを楽しく読んでいるという連絡をもらうことができた。</li> <li>・学生ボランティアなど学校教育を支援する人材は一時的には確保できた。</li> </ul>	<p>課題は学校運営協議会の組織的な運営である。来年度は組織的に運営できる学校運営協議会にするように改善を進めていく。</p>
平成24年度指定	横山第一小学校	12回	<p>校務分掌と学校運営協議会とが連携し、学校の教職員と保護者・地域の協力者を含めた専門部会を中心に、組織的な運営を行う。</p> <p>&lt;安心・安全部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域防災訓練の企画・運営・実施</li> <li>②学区内のトンネル工事に伴う対応</li> </ul> <p>&lt;学び部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③放課後子ども教室の充実</li> </ul> <p>&lt;子育て部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④関係機関などとの連携した支援の在り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①以前から地域の町会主催で行ってきた防災訓練を母体とした、学校を避難所とする総合的な地域防災訓練の実施</li> <li>②学区内の工事への対応として、地域の町内会・自治会と連携し、説明会への参加、要望書の作成を行う。</li> <li>③児童に確かな学力の定着、豊かな心の育成を図るため、学校運営協議会が主体となり、漢字検定や親子キャンプ、どんど焼きを実施するほか、放課後子ども教室を活用した、学習教室やスポーツ教室の企画・実施</li> <li>④学校運営協議会委員(子育て部会担当)と学校教職員、スクールカウンセラー、子ども家庭支援センター、地域養育施設職員、学童、幼稚園・保育園園長などが年3回支援会議を開催し、情報交換を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年間5回、館町町会の防災担当者と学校の担当者として防災担当者会議を開催し、内容や進め方、役割分担についての検討を行った。そして12月に学校を避難所とした防災訓練を実施した。学校から全校児童と保護者に参加希望を取り集約し、当日は保護者や地域住民を合わせて234名の参加があった。また、学校の生活指導部(避難訓練担当)を中心に教職員が19名参加し、町会の防災担当と役割を分担しながら11の訓練を実施できた。</li> <li>②2月から始まる学区内の工事について、学校運営協議会にて学区内の安全について協議を行った。地域関係者と情報を共有しながら工事関係者へ要望書を提出し、了解を得られた。</li> <li>③放課後子ども教室推進委員会が中心となり、毎月の放課後子ども教室便りを発行して参加の呼びかけを行った。保護者ボランティアや地域人材をした学習教室や習字教室、漢字教室のほか、近隣校による理科実験教室、地域スポーツ団体によるスポーツ教室(サッカー教室等)などを企画・実施することができ、活動の活性化を図ることができた。また、保護者ボランティアの見守りも常時配置することができ、校庭以外の開放(図書室など)ができるようになったため、開催回数も昨年度と比べ1.5倍に増やすことができた。</li> <li>④学校運営協議会と学校、関係諸機関とが児童や家庭に関する情報共有をすることで、役割分担しながら支援の方策や方向性について検討を行い、児童と保護者に対して組織的に対応することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①館町町会以外の学区内の地域(ゆりのき台・館町団地)を含めた地域防災訓練の実施に向けた計画の立案</li> <li>学区内の中学校と連携し、中学生を活用した防災訓練の方向性の検討</li> <li>地域の大学(トヨタ自動車大学校)と連携し、大学生を活用した防災訓練の検討</li> <li>②学区内の安全に向けた地域町会・自治会との連携(連絡方法、情報共有の仕方など)</li> <li>③放課後子ども推進委員会とシルバー人材センターとの連携会議の設定</li> <li>保護者ボランティアの拡充と地域人材の発掘</li> <li>地域協力者への連絡・調整を行うコーディネーターの育成</li> <li>④各関係機関との連絡・調整と、会議日時の設定</li> </ul>
	上川口小学校	6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の各種の取り組みで、学ぶ意義や意味が分かる取り組み</li> <li>・分掌組織の役割</li> <li>・学校として地域行事への参加</li> <li>・上川町の将来の展望を行政と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域参加型運動会の種目</li> <li>・継続的な読み聞かせ活動</li> <li>・サマースクールへの見守り補助活動や授業への補助活動</li> <li>・地域の学校清掃ボランティア活動へ教員が共に取り組む活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員による教育活動を説明させることにより、学校(教員)の理解と協力する活動が明確になった。</li> <li>・学校職員が地域を知り地域行事や取り組みへ参加が増えた。</li> <li>・学校への期待の声を直に聞く機会が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・保護者・地域協働の具体的な取り組みを推進する。(学校行事・教育活動・地域行事)</li> <li>・少子高齢化の地域にあって、学校・保護者・地域の果たす役割と協働を考えていきたい。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成24年度指定	恩方中学校	9回	①「放課後基礎教室」を開催し、個に応じたきめ細かな学習支援の実施及び夏季休業日中に教員が企画する「サマースクール」の補助 ②夏季休業日を利用した、地域住民と生徒、教職員による教育環境の整備 ③準会場としての英語検定の実施 ④登校時の見守り ⑤「学校運営協議会便り」の発行	①基礎学力の定着が課題である生徒に対して、対応できる場をつかった。 八王子市の標準レベルに近づけることを目標としたが、目標を達成することはできなかった。 本年度から取り組み始めた英語検定対策については、多数の合格者を出すなど、成果を上げることができた。 ②老朽化が進む校舎であるが、普段整備が行き届かない箇所を重点的に整備することができた。 地域と学校が力を合わせて教育環境を整備することにより、感謝する心や地域・学校を愛する心を育てることができた。 ③英語検定を準会場として実施することにより、受験者を増やした。 ④登校時の見守りにより、自転車通学による重大事故は発生しなかった。 ⑤学校運営協議会の活動を周知し、昨年度に比べて認知度を上げることができた。	①「放課後基礎教室」については、今後も継続して開催していく。学力向上に対して有効な取り組みであるが、参加生徒が少ないことが課題である。保護者への通知や三者面談などにおいて、活用を周知していく。 英語検定対策については、成果を上げることができたので、引き続き取り組んでいく。 ②教育環境の整備は、まだ十分ではないため、今後も引き続き取り組んでいく。昨年度に比べ、参加者は増えてきたので、今後も参加者の募集を効果的に行い、参加者を増やしていく。 ③英語検定についても、多くの受験者があり、必要性が認識されたので、継続して取り組む。他の検定の実施についても考えていく。 ⑤生徒・保護者の学校運営協議会の認知が、まだ不十分である。	
	由木中学校	11回	①小中連携を推進するために、中学校の部活動体験を企画・実施した。 ②基礎学力の向上・定着を推進するために放課後の「楽習教室」を企画・実施した。	①7月16日(土)に近隣の小学校5・6年生対象に部活動体験を中学校と協賛の形で実施した。 ②11月より毎週水・木曜日に「楽習教室」を実施した。首都大の学生2名をボランティアとして活用した。	①小中の連携が推進された。小学生は中学校の様子を知ることができ、安心して入学できる。中学生は小学生を指導することで自己肯定感が向上した。 ②数学が苦手な生徒に対し、ほぼマンツーマンで教えることができたので、楽しく学習することができた。	①7月の暑い時期なので熱中症対策が必要である。6月実施を考えたが、中学校の夏の大会と重なるため、6月実施は難しい。 ②放課後に部活動があるため、参加する生徒が少ない。また、教える方も3～4名なのでもう少し人数が欲しい。
平成25年度指定	第二小学校	11回	①学校・地域合同防災訓練の計画及び実施 ②保小中連携の充実 ③学力向上を目指した放課後補習学習の実施など	①7月の学校運営協議会において、12町会長・八王子市防災課職員・第四中・光明第一保育園が参加し学校・地域合同防災訓練計画を協議した。10月に学校・地域合同防災訓練を実施した。 ②第四中学校との小中連携に向けた計画し実施した。光明第一保育園との保小連携に向けた計画をし重要性を互いに共有することができた。 ③「花いっぱい为学校子ども一人ひとりの心にきれいな花を咲かせよう」活動を計画し実施した。	①12町会長・八王子市防災課職員・第四中・光明第一保育園が参加した学校・地域合同防災訓練を10月に実施できた。地域や保護者から「防災訓練の重要性がわかった。」「とてもよい取り組みである。」との評価をいただいた。 ②第四中学校と校内研究会を通して、学力向上・基本的生活指導習慣について協議をした。中学校へのスムーズな移行を図ることができた。光明第一保育園との協議会を通し、保小連携の重要性を互いに共有することができた。 ③「花いっぱい为学校子ども一人ひとりの心にきれいな花を咲かせよう」を合言葉に、地域と児童と一緒に緑化活動を行った。保護者から「きれいな花がたくさん咲き、学校がきれいになった。」との評価をいただいた。	①第四中学校生徒と12町会を中心とした学校・地域合同防災訓練の更なる充実を図る。 ②光明第一保育園による本校教員の保育体験教室を実施する。 ③学力向上を目指した学校運営協議会委員による放課後補習学習の充実を図る。
	高倉小学校	11回	①児童の地域での活動や生活について、情報共有を図るとともに、課題に基づき、協議を進めた。交通ルールに関わること、不審者対応に関わること、及び地域の店舗や公共施設での行動やマナーに関わることなどを中心に情報を得ることができ、学校での生活指導と連携させ、保護者との協力も得ながら指導を進めることができた。 ②「漢字検定」の取り組みと児童の学力上の課題について協議した。学力調査や児童アンケートなど、学校からの資料を基に、本校の現状を共通理解した。「漢字検定」の実施と、参加者と地域での協力を拡充していくための取り組みについて話し合いを進めた。	①学校の取り組みとして定着した「あいさつ運動」では、PTAがより主体的に取り組んでくれるようになり、多くの保護者が参加した。また、校内においては、代表委員会の児童を中心に「あいさつ運動」に取り組みたいとの声が高まり、児童の主体的な取り組みへと発展した。 ②学力向上に資する取り組みのひとつとして、「読書活動」の充実を図っている。学校運営協議会と連携し、学校運営協議会委員を兼務する人材コーディネーターを中心に協力者を募り、「読み聞かせ活動」「図書室環境の整備・充実」「学校司書とPTAの連携」などの取り組みを進めた。	①児童の主体的な姿、取り組みが見られたことは大きな成果であった。一方では、児童評価アンケートの結果から、「自分の考えをみんなの前で発表する」ことに対して肯定的になれない児童が多いという現状もある。あいさつの活性化を、自己表現やコミュニケーションの意欲へつなげていく取り組みを進めていきたい。 ②「読書活動」の充実を進める中で、PTA・図書ボランティア・学校司書・学校運営協議会、そして学校の協力体制が充実してきた。子どもたちの読書への意欲も高まっており、引き続き連携協力して取り組みを進めていきたいと考えている。	①「あいさつ運動」の児童主体での取り組みは、まだ単発的なものとなっている。高倉小学校での価値ある活動として、継続させていきたい。また、活動の中で、児童と地域の方などと活動の場を共有できるような機会を設けていきたい。 ②「読書活動」の充実を引き続き図っていく。現状として図書ボランティアについて新規に希望をされる方が少なく、人数が減っている。PTAだけでなく、地域人材を発掘し、協力をいただけるよう進めていきたい。タカラクラブ(放課後子ども教室・サタデースクール)については、推進体制が変わり、進め方や体制などを学校運営協議会が関わりながら検討し、構築していく取り組みが必要である。



	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成25年度指定	高嶺小学校	12回	<p>①国、都、市の学力調査などの結果から、学力向上を図っていく必要がある。算数の基礎的、基本的内容を確実に習得し、学力の向上を図っていくために、放課後補習教室「くすの木教室」のさらなる充実</p> <p>②地域の中で、子どもたちの豊かな感性と自己肯定感、自己有用感を育むために、「高嶺富士」や花壇、池の手入れなどの年間を通じた計画的な実施</p>	<p>①放課後補習教室「くすの木教室」は、月曜日は前半(14時30分～15時)3年生、後半(15時15分～15時45分)4年生、金曜日は前半2年生、後半5・6年生を対象に6月から開始し、翌年3月まで、約50回開催した。教材は、東京ベーシックドリル算数を使用し、地域の方々に指導員になっていただき、ドリルの丸付けなどをしていただいた。</p> <p>②「親子草取り」「環境美化大作戦」として、子どもたちと保護者、学校ボランティア、世話人会、地域の人たちで草取りを行った。「焼き芋大会」を実施するために、事前に里山を愛する会の人や学校ボランティアの人と薪を準備し、里山から木の切り出しをしたり、子どもたちは落ち葉を集めたりした。学校のシンボルとしての「高嶺富士」に、子どもたちと学校ボランティアで芝桜の苗の植え付けをした。</p>	<p>①一人ひとりの児童が今までに学習した算数の既習事項の中で、診断テストに基づいて理解が不十分なところのプリントを選択して、取り組む。指導員の方に丸付けをしていただき、間違えたらやり直しを行い、合格印をもらえるまで繰り返し学習する。このことを通して、児童は苦手意識を克服しながら、成就感や達成感を感じられるようになった。児童からは「算数は前は好きでなかったが、『くすの木教室』を通して大好きになった」「分からないところを先生と一緒にやれたので、算数が好きになった」「もともと算数が好きだけど、『くすの木教室』でさらに好きになった」などの感想が聞かれた。</p> <p>②環境美化活動を通して、子どもたちが環境を美しくすることに興味をもつとともに、学校、家庭、地域社会が協働した取り組みを行うことで、地域を生かした活動が良い思い出となり、自己有用感を育て、地域に誇りと愛着をもつことができた。</p>	<p>①現在は、地域の指導員の人数の関係で、各学年週1回ずつ実施している。今後も、指導員の再募集を行い、指導員の人数を増やしていく。指導員の人数を増やすことができれば、各学年週2回の実施を検討する。また、算数だけでなく、国語の導入についても引き続き検討を重ね、年度途中、又は平成30年度からの国語の導入を目指していく。「くすの木教室」に対する児童アンケートを分析し、より良い「くすの木教室」にしていく。指導員を増やしていくことと算数以外の他教科にも取り組めるようにしていくことが今後の課題である。</p> <p>②来年度も今年度の実績を参考に実施する。さらに、校内の塗装補修を行い、校内環境の整備について取り組む。</p>
	ひよどり山中学校	10回	<p>①本校の教育活動に対する理解と協力を図るため、学校行事への参観・参加などを学校運営協議会委員・PTAと連携し、地域・町内会などに積極的に働きかけた。</p> <p>②学校コーディネーターと学校運営協議会委員との連携により、学習ボランティアなどを募集・確保し、その活用などについて充実を図るよう協議して取り組んだ。また、総合的な学習の時間に実施する農業学習の一層の充実のため教職員、農業アドバイザーとの連携、協力、打合せを行った。</p>	<p>①地域の人材を生かし、地域に根ざした地域と協働する特色ある学校教育を実現することを目的に、「学力向上部」「農業振興部」「地域支援部」を設置し、熟議を重ね、地域運営学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>②学力向上部は、生徒の学力向上を目指し、放課後、土曜日学習を実施する。農業振興部は、総合的な学習の時間で農業体験学習を支援充実させる。地域支援部は、学校施設を利用し、学校と地域との連携を深める。</p>	<p>①年度末に実施した、学校評価アンケートや地域諸会議などの報告から、本校が「コミュニティー・スクール」として取り組む活動(ひよどり山音楽祭・青少対行事であるクリーン作戦など)が理解され、協力関係が進んだ。</p> <p>②学力向上の取り組みとして、夏季休業期間と放課後の学習教室が安定的に実施できた。また、授業などでの学習補助ボランティア(技術科木工学習補助や国語科書写指導補助など)による支援が得られた。</p>	<p>①総合的な学習の時間に実施する農業体験学習では、学校運営協議会委員の働きかけにより、年間を通じて農業アドバイザーが確保できた。しかし、農業アドバイザーの高齢化によって、次代を担う農業アドバイザーへの引き継ぎが課題である。</p> <p>②学校と連携して取り組む行事などの活動計画(青少対行事、自治会行事、学力向上のための学習教室日程、学習支援計画など)について、年度当初に一覧にまとめ「見える化」を図り、具体的な活動に向けて準備・共通認識を深めるなど、行動連携を推進する。</p>
	由井中学校	9回	<p>①自治会と連携して防災支援部会による避難所運営・炊き出し訓練の実施</p> <p>②教育支援部会では、スーパーサイエンス授業(科学実験教室)を行うに当たり、企業との打ち合わせを実施する。ファンドを構築させ生徒達の部活動や教育機器に有効活用できるようにする。</p> <p>③地域連携部会では、各町会自治会で行われる、地域行事(夏祭りなど)に生徒が参加できるように調整する。</p>	<p>①防災フェスタでは、本校中学生380名が参加し、テント設営・炊き出し訓練を地域の中心として参加し、小中連携教育として、由井中学校3年生と由井第三小学校1年生が当日炊き出しを一緒に取ることや、煙体験を一緒に参加した。</p> <p>②教育支援部会では、スーパーサイエンス授業(科学実験教室)を行うに当たり、企業との打ち合わせを実施した。ファンドについて準備した。</p> <p>③地域行事に積極的に中学生が参加できるよう、各町会自治会に働きかけ、行事の運営(模擬店のお手伝い)を実施した。地域の大人の方や小学生以下の子どもたちに楽しんでもらえるよう部活動単位で参加した。</p>	<p>①21の町会・自治会が連合して行った防災フェスタに由井中学校が全校参加し、地域の担い手として中心的に動き多くの成果を収めた。</p> <p>②教育支援部会で計画していたスーパーサイエンス授業(科学実験教室)を6月に実施し、生徒全員が興味、関心を持つ科学的な実験授業を行うことができた。ファンドについて準備ができ、動き出せた。</p> <p>③地域貢献や行事への積極的な参加により、アンケートで由井中生の自己有用感が有意に高い結果となった。</p>	<p>①町会・自治会が連合して行った防災フェスタを、由井中学校の学区の町会・自治会で継続していくことが必要になる。</p> <p>②スーパーサイエンス授業(科学実験教室)を今年度も6月に実施、今回海洋に関すること、3Dプリンタなどさらに範囲を広げて実験授業を行うことができた。ファンドについて準備ができ、動き出せたが、ファンドの構築はできていない。</p>
	中山中学校	10回	<p>①「東海道五十三次 美術セミナー」の開催</p> <p>②地域交流講座の講師の依頼</p> <p>③リーフレット、安全マップの作成</p>	<p>①中山中学校区3校の学校運営協議会共催として、「東海道五十三次 美術セミナー」を開催した。</p> <p>②中山小学校、中山中学校で共通の講座を設置し、地域人材を招いた地域交流講座を開催した。</p> <p>③学校運営協議会を周知するためのリーフレットと子どもが活用しやすい安全マップの見直しを行った。</p>	<p>①3校の学校運営協議会が共催することにより、地域に根ざした取り組みとなった。約300名の来場者があり、学校運営協議会の周知に役立つとともに、3校の連携がさらに深まった。</p> <p>②例年実施していることから、生徒は「来年は〇〇〇をやりたい」など、次年度への展望が考えられるようになった。また、生徒が地域の方とのふれあいの機会となった。</p> <p>③リーフレットの見直しを行い、より内容がわかりやすいものになった。安全マップは小学校にもデータを送り、各校独自に活用しやすいように工夫できるようにした。</p>	<p>①「東海道五十三次 美術セミナー」については、MOA美術館の協力を得て実施できた。来年度以降の開催予定は無いが、MOA美術館としては、地域に開いたセミナーは初めてであったので、可能性を広げることができた。</p> <p>②次年度の実施に向けて、早期に講座を確定することがよりスムーズに進められると考える。</p> <p>③定期的に見直しをする必要があると考えるが、地域の方に学校運営協議会の取り組みをもっと広く周知していく必要がある。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成26年度指定	第五小学校	10回 ①地域合同防災訓練に向けての協議 ②放課後子ども教室の長期休業中実施に向けての協議 ③教育ボランティアの充実と活用に向けての協議	①五小地区を取り巻く9町会のうち6町会が、AED体験や煙体験などのブースを担当する。子どもたちはクラスごとにブースをまわり、講義を聞いたり体験したりする。 ②学校が授業を行っている平日と合わせて、夏・冬・春の長期休業中にも実施する。 ③学校コーディネーターを中心に人材を発掘し、教員と保護者・地域の方が一緒に本校児童を育てていく。	①授業中の実施は初めてだったが、事前にしっかりと打ち合わせをしていたので、スムーズに進行することができた。地域の方もたくさん参加し、児童との交流も行うことができた。 ②日によって人数にばらつきがあったが、参加者の保護者からはたいへん助かったとの報告を聞くことができた。地域の方々も、前向きに取り組んでいただいている。 ③毎年たくさんのボランティアの方に協力をいただいております。今年度もとても充実した活動を行うことができた。児童もたいへん喜んでいる。	①来年度も引き続き取り組んでいくが、天候に左右されやすいので、校庭が使用できないときの実施方法も検討していく。 ②来年度も引き続き実施していく。気温の関係で室内での活動がメインになるが、校庭での活動も柔軟に取り組んでいけるよう検討していく。 ③ボランティア名簿がまだ未完成なので、来年度も引き続き作成していく。
	清水小学校	10回 ①学力向上について、補習、漢字検定と2つの方法で取り組む。 ②あいさつ運動に、学校・家庭・地域で協力して取り組む。	①毎週金曜日に補習を行い、地域の学習ボランティアの方に協力していただく。 漢字検定を2月10日に行い、地域や保護者のボランティアの方に協力していただく。 ②PTAあいさつ見守り活動への呼びかけを行う。 学校安全ボランティア会議を行う。	①補習の時間に、学校運営協議会委員の紹介で地域の7名の方が学習ボランティアとして協力していただきました。学習ボランティアの人数が確保できたために、教員と学習ボランティアが協力してより丁寧に補習を行うことができた。児童も、個別に対応して下さる補習のボランティアの方に親しみを持ち、学習を進めることができた。 漢字検定では、昨年度同様に約150名が受検することができた。学校運営協議会委員で申込み手続きや当日の監督者募集などを行うことができた。 ②PTAあいさつ見守り活動への参加者が増えてきた。学校安全ボランティア会議に保護者にも参加してもらい、あいさつや見守り活動について理解を深めることができた。	①補習時に地域学習ボランティアの人数をさらに増やし、より丁寧に児童の学習支援を行っていく。 ②登下校時のあいさつは、進んでできる児童が増えてきた。自ら進んで友達にあいさつのできる児童はまだ十分とはいえない。6年生や代表委員会のあいさつ運動とともに、大人のあいさつ見守り活動も引き続き行い、さらに活発にあいさつができるように働きかけていく。
	宇津木台小学校	10回 ①昨年度立ち上げた学校支援地域本部の運営方法 ②PTAの事業(防災講習会)や各ボランティア団体への支援(広報、イベントの側面協力)	①学校支援地域本部準備会を重ねることで委員の意識の共通化が図られ、次年度は学校支援地域本部として活動することが確認された。また、各ボランティア団体との意見交換を行い、次年度の具体的な活動目標を設定することができた。 ②PTA主催の防災講習会では、非常食を作る際に工夫できるレンピ(アルファ化米のおにぎり)を実際に作り提供した。また、リーフレットの配布を通して活動の理解促進を図った。 放課後子ども教室の土曜イベント(サタースクール)のフリーマーケットに参加し、ブースの出店することができた。	①学校支援地域本部と連携する教員を昨年度は1名であったため過重な負担となった。今年度は、地域連携委員会を校務分掌に位置付け、人員も8名に増やした。予定する活動に各学年が関わり、一つ一つ丁寧に検証しながら取り組めた。学校側の組織改善をすることで、学校運営協議会自体も活性化した。また、副校長と学校支援地域本部との役割分担が明確になり、運営が円滑になった。 ②活動予算も限られる中、予算確保の方策を含め、わくわく算数クラブなどのボランティア組織への支援の在り方については、今後さらに検討が必要となった。	活動の重点化を図り、次年度は図書ボランティアとペルマーク活動を担う人材が地域からでももらえるように、各町会自治会との連携や広報の充実を図る。今年度、好評だった各イベントへの参加は引き続き行っていく。
	式分方小学校	10回 ①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信 広報誌「にぶっこみゆこみゆ」(A4両面カラー)の発行 地域町会自治会に回覧・配布 運動会での飲み物販売(式分方小学校学校運営協議会マスコットの缶バッチ付き) Tシャツの販売(児童・保護者向け) ②地域人材(ボランティア)の拡充 放課後算数教室やパソコン学習など学習支援ボランティアの人材確保とコーディネート 夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の開催	①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信 式分方小学校のキャラクターが入ったTシャツの販売(児童・保護者向け)を行った。 Tシャツのキャラクターのデザインは、先生方着用のポロシャツと同じものとし、運動会で学校運営協議会委員が先行して着用し、アピールした。 ②地域人材(ボランティア)の拡充 夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の開催(地域の方によるワークショップやPTAによる集団遊び)	①Tシャツを購入した子どもたちが着用して通学したり、好評を得ている。(来年度も販売予定) 同じデザインのTシャツを着ることで、連帯感が生まれてくることを期待している。 ②「わくわくサマースクール」17講座に約770名が応募し、約550名が参加した。定員の2～3倍の応募があった講座も多く、定員を拡大したり、抽選方法も工夫して、一人でも多くの児童が参加できるように努めた。「わくわくサマースクール」は夏休みの子どもたちの定番の行事となっており、地域の方々との交流の場となっている。	①まだまだ地域の方々に「コミュニティ・スクール」が知られていないのが現実である。これからも機会あるごとに「地域の子もたちは地域で育てる」の一歩として「地域の子もたち」に関心を持ってもらえるように努める。 ②地域の人材(ボランティア)を募ることは難しい課題である。(特に学習支援) まずは、登下校の見守りや校庭清掃など、気軽に参加してもらえるようなところから、それぞれの目的別に募集する。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成26年度指定	由井第三小学校	11回 ①学校運営協議会のPR活動 学校便り、学校ホームページ及び学校説明会などを活用したPR方法 ②授業参観などへの参観実施並びに児童の学力・体力向上 学校運営協議会のみ授業参観の実施、校内授業研究への参加計画 広くて新しくなった校庭を活用したマラソン週間や大なわ跳び大会の実施 ③夢大地の取り組みの一層の充実 日本の伝統や文化の良さを発信する能力・態度の育成事業を推進し、地域伝統芸能習得活動を充実方法について考える。	①学校ホームページにおいて学校運営協議会や夢大地の取り組みのコーナーを設定し、記事を多くアップし、広報活動に努めた。 ②学校運営協議会のみ授業参観を年2回実施し、日頃の授業の様子を参観してもらった。また、校内授業研究にも参加し、研究授業を参観し、研究協議会に参加した。 ③学校運営協議会委員と、教員、地域の協力者で副読本作成委員会をつくり、副読本「ふるさと小比企・片倉 夢大地」(教師用)の制作に着手した。	①学校便り、学校ホームページ及び学校説明会などで広報・啓発活動を充実させることができた。活動の良さなどを、広く保護者や地域住民に周知することができ、協力体制も一層高まりつつある。 ②学校運営協議会委員が参観する回数や種類を増やし、本校児童・教職員の実態を共有することができた。また、体力向上については、全校で一斉に取り組む良き校風が醸成されてきている。 ③副読本の原稿についてはすべて完成させることができた。平成29年6月の完成を予定していて、保護者・地域に配布する計画を立てており、PR活動にもつなげることができる。小比企・片倉の豊かな自然や伝統文化の理解につながる教育活動が更に充実でき、総合的な学習の時間を中心に、児童の探究力の伸長につながっている。また、自分の町の良さをより一層理解し、郷土愛が生まれ、未来を担う子どもたちの育成が推進されつつある。	①学校運営協議会の予算を有効活用し、学校運営協議会が学校と協働体であることを確実に周知していく。 ②学校運営協議会委員による校内授業研究への参加については、会の進行方法を改善するなど、協働型授業研究としての充実を目指していく。また、教員の異動や地域支援者の動向に左右されない持続可能な取り組みにしていく。 ③副読本を活用した授業を展開例を作成し、有効活用ができるようにする。また、来年度から児童用の副読本作成に着手していく。
	横山中学校	10回 ①学校の様子や生徒の実態を知り、学校力の向上に繋げる。 ②地域の様子を知り、生徒の育成のために地域との協力、連携、理解を推進する。	①学校の様子や生徒の実態を知り、学校力の向上に繋げる。そのために、学校運営協議会委員が年2回の授業観察、教職員との面談を行った。 ②地域の様子を知り、生徒の育成のために地域との協力、連携、理解を推進する。そのために、12・13地区の民生・児童委員との懇談を行った。	①学校運営協議会委員と教職員が直接対話することで、生徒の実態や職員の現状を知ることができた。 ②民生・児童委員との懇談で、地域の子どもの様子や、横山地区の現状を話し合える場となった。地域の力を活かし、より良い環境を目指すきっかけとなった。	①教員数も多く、面談の時間も短かった。しかし、学校力、生徒の育成力を高めるためには、教職員の意識向上、実践力が不可欠である。学校運営協議会として、教職員の力となる協力体制をとりたい。 ②民生・児童委員との懇談会は有効であった。懇談会の回数を増やしたり、より良く連携する工夫が必要である。地域で子どもを見守り、育てることが大切である。横山中学校を地域コミュニティの中心となるような活動を行う。
	川口中学校	6回 ・学校経営計画の承認、教育課程の承認、学校運営協議会の活動目標・活動計画の策定、各部から出された案件の承認 ・生徒の学力向上について、学校運営協議会ができることを検討する。具体的取り組みについて案を出す。(3年生の面接指導) ・支援部の活動を推進するため、下部組織(川口支援の会)を一層充実させる。今後の支援部の活動の方向性について考える。(花植え活動の運営、校舎内の環境美化の取り組み) ・開かれた学校を一層推進する。(教養講座の運営) ・学校評価の在り方について(評価アンケートの項目検討)	・教室を地域に開放する。地域の方の運営による教養講座を開設し、地域の方が来校しやすい学校づくりを推進する。(学校カルチャーセンター化) ・生徒の心をなごませ、学び舎にふさわしい環境を、学校と保護者や地域が連携して整えていく。年間4回の花植え活動、校舎内に緑を置く一輪ごしの取り組み。 ・行事などへの関わりを促進する。(体育祭・防災訓練・合唱コンクール・ロードレース大会の見学) ・3年生の進路指導への関わり(面接官となり、面接指導をする)	・学校が現在取り組んでいる学力向上のための取り組みが明らかになり、学校運営協議会委員の理解が進んだ。進路指導への協力(学校運営協議会委員が直接、生徒の面接に関わる取り組み)がなされた。学校運営協議会委員の生徒理解が一層進んだ。3年生の地域の方への感謝の気持ちが養われた。 ・フラワーサークル、草刈り隊のボランティアによる活動がなされた。竹細工による一輪ごし設置の取り組みが具体的に進んだ。 ・大人の教養講座を開設し、3年間で延べ3,000名の地域の方に参加してもらうことができた。気軽に利用できる中学校として、地域の方から感謝の言葉をいただくようになってきた。竹細工講座の皆さんの作品が、展示会に出展されるようになった。 ・教養講座の方から学校ボランティアへの協力が期待できる状況に近づいてきた。	・学力向上についての取り組みがはっきりわかる成果として現れていない。生徒に還元できる確かな取り組みには至っていない。学校を、落ち着いた学習環境を整えることで、学力向上につなげていきたい。各種検定の実施について検討していきたい。 ・教養部の活動は順調であるが、閉講・休講する講座もある。新たな募集の時期にきている。 ・読書を推進する手立てが課題である。
平成27年度指定	緑が丘小学校	10回 ①学校(児童・保護者・教職員)と地域が一体となり、学習、見守り、ゲストティーチャーなど、様々な取り組みを行う際、学校支援などのボランティアの人材が不足しているという課題を受け、本年度、保護者主体によるボランティア「緑が丘応援団」を募集する。 ②地域、学校、保護者、消防が参加した地域合同防災訓練を継続的に行っていくための計画を立案する。	①学習補助を含めた学校の教育活動全般に渡って、児童を支援するボランティア組織「緑が丘応援団」を設立し、本年度は「みどりっ子算数教室」を年8回実施 ②学校公開日を利用した、日常学校で行われている避難訓練と地域の防災訓練の保護者も参加した合同実施	①「緑が丘応援団」には、保護者22名の登録があった。また、「緑が丘応援団」が主体となって開催した「みどりっ子算数教室」には、60名を超える応募があり、延べ200名の児童の参加があった。児童は、算数のプリント学習や、既習事項の復習に積極的に取り組んでいる。学校の授業で分からなかったところや、基礎力の定着に役立っている。 ②平成28年度の合同防災訓練は地域、学校、児童、保護者、消防合わせて1,200名の参加のもとに行うことができた。地域と学校と保護者が互いに連携できることの確認ができ、とても良い訓練になったとの感想を多数いただいた。	①「みどりっ子算数教室」は今後も継続していくが、支援する立場のボランティアの人数に不足を感じることもあり、ボランティア登録数の底上げと、どのように連絡し配置していくか運営面での課題の改善を図っていく。 ②学校公開日との関連もあり、毎年の開催は難しいという意見もあった。しかし、地域と学校がつながった防災訓練は多方面から継続して行いたいという要望が出ている。地域防災会議では2年に1回の開催の方向で、企画立案、訓練計画の作成をすすめている。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成27年度指定	長沼小学校	12回	①子どもの学力向上 ②放課後の子どもの居場所の確保 ③地域防災の推進 ④地域人材・自然を活用した教育活動	①学校運営協議会が地域・保護者ボランティアを募り、放課後補習おもだか教室と漢字検定を実施している。 ②放課後子ども教室の実施日の拡大と高学年児童の連携中学校部活動参加により、放課後の子どもの居場所確保を図っている。 ③町自治会と連携して小学生、中学生、地域住民と一緒に参加する地域避難・防災訓練を実施している。 ④ゲストティーチャーの派遣や田畑の無償借用など、地域人材と自然を活用した授業を年間40回超実施している。	①放課後補習おもだか教室のボランティアの増員により、実施学年が拡大できた。 ②放課後子ども教室推進委員に働きかけ、週2回開催に拡大することができた。 学童クラブの施設増設を承認し、学童クラブ待機児童の解消を図った。 ③地域住民と共に中学生ボランティア・小学生が参加する地域避難・防災訓練が実施できた。 ④地域人材・田畑を活用した農業体験学習に加え、家庭科のミシンの実習や馬頭琴の体験学習など、学校運営協議会が支援する授業が拡大した。	①子どもの学力向上の課題については、学習ボランティアを増員するなど、引き続き放課後補習おもだか教室を充実させていく。漢字検定については、実施時期など再考して、受験者の増員を図る。 ②高学年児童の放課後の居場所を確保するために、放課後子ども教室の拡大を図っていく。また、中学校の部活動に小学生が参加するシステムを確立していく。 ③地域防災を推進するために、地域避難・防災訓練の周知の仕方を改善するなど、小学生、中学生、地域住民の参加者の増員を図っていく。 ④学校コーディネーターや教員のニーズに合った支援を充実させていく。
	由木西小学校	11回	①学校運営協議会の分掌を明確にする。その上でそれぞれの分掌の取り組みを定例会でシェアし、情報発信していく手立てや場面設定を行っていくことを協議した。 ②他校の学校運営協議会の活動の様子をシェアし、自校の課題について協議した。 ③「学校づくりは地域づくりにつながる」の理念をシェアし、三位一体の取り組みについて協議した。	①情報宣伝部の月例の学校運営協議会便りの発行、地域回覧、地域掲示板へ掲示した。自然体験活動支援部の情報宣伝活動を行った。 ②多摩ニュータウン地域運営学校協議会への参加と定例会での報告会を実施した。 ③地域防災研修会、健康フォーラム、由木西小オープンキャンパスなどを実施した。	①保護者の学校運営協議会への認知度が96%(肯定的評価)に達した。地域運営学校への移行について好意的な声もたくさん寄せられている。 ②自校の学校運営協議会の課題を、多摩ニュータウンという大きな地域エリアで見つめ直すことができ、これから何に取り組んでいけばいいのかをシェアすることができた。 ③学校運営協議会委員の尽力で実現した特色ある活動に参画・協力する中で教職員・保護者の意識の変容が見られるようになってきた。地域の関係機関の参画数も増えてきている。	①理解を広げていくためのコンセンサスは広がってきている。まずは、第1期(2年)の活動の継続が基本となる。その上に、何ができるか、各分掌の創意を引き出していきたい。 ②課題は、学校運営協議会の裾野を広げていくこと。そのためにも、地域の学校応援団を作っていくことが求められると考えている。 ③平成29・30年度と本校は「自尊感情」を教育課題にした八王子市の研究指定校を受ける。この2年間で築いてきた三位一体の取り組みを「自尊感情を育むコミュニティづくり」として醸造していきたい。
	高尾山学園	9回	・本校の特色ある教育活動について、年間を通じて協議を行い、あるべき姿の方向性を検討した。 ・保護者力向上のための諸施策の検討と学校サポート本部に関して提案、協議、検討した。 ・学校運営協議会委員と全教職員との面談を実施し、本校教員の状況を把握し今後のあり方について検討した。	・学校サポート本部を立ち上げ、保護者、保護者OB、団地住民、他地区住民の参加する体制をつくり活動をした。 ・保護者力向上のため、各種ボランティア活動を企画し運営した。	・学校運営協議会委員全員が本校の特性や教員の状況を把握し、来年度へ向けた提案や協議を行い、教育課程や学校経営計画に反映することができた。 ・学校サポート本部の運営が軌道に乗り諸活動を行い、少しずつではあるが協力的な保護者が増えていく。 ・団地住民らとの交流の機会が増え互いにWIN-WINの関係を築き、地域への貢献が出来るようになった。	・平成29年度は2期目となり、メンバーが一部入れ替わるが、更なる学校経営向上のため引き続き不登校特例校としてのあるべき姿を検討する。 ・保護者力向上のための諸活動を充実させる。 ・団地住民との交流を更に深め地域再生の一助となるよう検討を継続する。
	桐田中学校	8回	①運営目標や活動内容、学校の状況の報告 ②地域との連携、地域人材の活用	①学校の状況の報告 学年主任から各学年の様子を報告した。また、事務職員から予算の状況について説明した。 生活指導主任から学校全体の生徒の様子について報告した。 ②地域との連携 地域清掃への協力を行った。また、朝学習の実施については、生徒の質問に答えるなどの学習の補助について、地域人材を活用し、そのコーディネートを行った。	①学校の状況について、教員から直接報告した点については好評であった。また、予算の状況についての説明も興味深く聞いていただき、概ね好評だった。 ②年3回の地域清掃には合計で、延べ1,500名以上の参加者があった。また朝学習の補助にも毎回、地域の学生ボランティアが来てサポートをしていただいた。学校運営協議会のメンバーがそのコーディネートを行った。	①今年度の取り組みは継続し、内容を一層充実させる。 ②来年度に新たに取り組む内容として、以下の4つを予定している。 保護者会の全体会で、学校運営協議会について広報する。 定期考査前の学習補助について、地域人材のコーディネートをサポートする。 英検、漢検、数検を実施する際の地域人材のコーディネートをサポートする。 修学旅行の業者選定のプレゼンテーションに参加する。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成28年度指定	第四小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校現場が抱える課題に対する共通理解を深めるため、我が国の教育事情について意見交換を行った。</li> <li>本校の教育課題にする共通理解を深めるために、教員との意見交換や授業参観を実施した。</li> <li>児童及び保護者からのアンケート結果を学校評価としてまとめ、学校運営協議会で協議し、出た意見を次年度の教育課程の編成に反映した。</li> <li>京都の先進校を視察し、学校運営協議会の先進的な取り組みについて情報共有した。</li> <li>フォーラムに参加し、知り得た情報を学校運営協議会で報告し、学校運営協議会委員全員で共有した。</li> <li>平成29年度の教育課程について協議を行い、今後の取り組みについて協議した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業地区公開講座では、学校運営協議会委員と保護者・地域の方との意見交換の場を設定し、子育ての悩みや学校運営協議会の取り組みについて周知した。</li> <li>3つの柱として「学力向上」「地域防災」「環境美化」を定め、実施計画を次年度から行っていくようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会委員と教職員が協議し、学習と生活の学校としての規律である「第四小スタンダード」を作成した。</li> <li>「環境美化」として、5年生が育てた花を学校運営協議会委員と地域の方が通学路に花植を行った。年間3回実施した。</li> <li>「地域防災」として、平成29年4月19日に学校公開を兼ねて、保護者・地域の方と防災訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会だけでは、事業内容を決定しても、実際に実行することは難しいため、PTAや地域の機動力のある方々との連携を円滑に行っていくことが必要である。</li> <li>学校運営協議会の進め方を学校から学校運営協議会委員が中心となって進めていく必要がある。</li> <li>学校運営協議会で協議したことや事業内容を周知することが少なかった。広報の担当を学校運営協議会の中に設置することが必要である。</li> <li>3つの柱である「学力向上」「地域防災」「環境美化」の学校運営協議会委員の分担を明確にして、責任をもって企画・運営することが必要である。平成29年度は、「学力向上」として、夏季休業中の補習教室、漢字検定を実施予定である。「地域防災」は平成29年4月19日に総合防災訓練を実施する。「環境美化」として花植の継続と学校美化活動を実施していく予定である。</li> </ul>
	第九小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①京都の先進校を視察したことで得た情報によって、本校にて活用できる内容を検討する。</li> <li>②本校独自の取り組みを一つで良いので立ち上げたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会組織とPTAや学校職員組織との連動 PTAや学校職員が何らかの形で学校運営協議会とつながりを持つこと。この組織作りは平成29年度以降に実施予定である。</li> <li>②保護者・地域に学校運営協議会又は地域運営学校の理解促進に向け、学校運営協議会主催の行事を開催した。(浅川河川敷での第1回持久走大会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会委員による新しい組織作りの案が提出され、今後検討予定。 今後学校職員やPTAとも検討し、順次可能な所から組織編制を行っていく。</li> <li>②11月末に学校運営協議会主催で持久走大会を実施した。年度末の保護者アンケートからは「ぜひ今後も続けて欲しい」という声が、予想以上に多かった。今後も回を重ねていく予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTAや教職員と学校運営協議会とが組織的に密接な関係を築けると、地域運営学校の意義が達成されやすい。</li> <li>②学校運営協議会主催なので交安協・保育園・地域の太鼓同好会、近隣の住民への事前挨拶などは学校運営協議会が中心になって運営していく必要がある。将来的には九小児童だけでなく、学校行事ではなく、地域行事に発展させていく方向で考えている。</li> </ul>
	中野北小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成28年度の教育課程・学校経営方針及び学力浮上大作戦に基づく教育活動の進捗状況の報告。地域人材を活用した授業の推進を行う。</li> <li>②児童数の減少と統廃合の見通し</li> <li>③いじめ防止及びSNSについての注意喚起</li> <li>④安全でおいしい給食の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域人材を活用した授業の一層の取り組みや、道徳地区公開講座、放課後子ども教室や放課後学習教室での人材活用に取り組んだ。</li> <li>②近隣保育園や幼稚園に管理職が出向き、保護者会などで本校の教育活動を紹介してきた。また、様々な交流行事を行った。</li> <li>③安心して学校生活を送ることのできる中野北小学校の生活指導について、攻めの生活指導・プラスの生活指導を中心に行った。</li> <li>④栄養士や養護教諭による食育の推進を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力調査の結果を報告することで、「ターニングポイントは28」という目標が、着実に達成されていることを確認することができた。</li> <li>②なかなか表れてこない。</li> <li>③中北SNSルールといじめ防止基本方針、生活指導基本方針や校内委員会を積極的に活用し、いじめの防止や問題行動への早期発見・早期対応をすることができた。</li> <li>④給食室を取り壊したときの約束が、ほぼ守られており、引き続き安全でおいしい給食の実施を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続きATの配置を要望しながら、全力を傾けて習熟度別の補習や授業を行っていく。</li> <li>②新入生が引き続き減少してくると予想されるので、市の動向を注視していく。</li> <li>③学校便り・学年・学級便りの他に、新たに学校運営協議会報告書を作成し配布することで、保護者の学校への関心が一段と高まってきたが、外部の関係諸機関との連携を図りながら家庭の問題にも対応していく必要もまだまだある。</li> <li>④施設面の老朽化が激しく、衛生面の課題が大きくなっていく。</li> </ul>
	小宮小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会委員に学校の教育活動の様子を見ていただくことや教職員との連携により、共通理解を深める。</li> <li>②学校・PTA・地域が協力して進められる取り組みの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1学期にセーフティ教室を参観し、意見交換会にも参加した。</li> <li>2学期に道徳授業地区公開講座を参観後、グループ討論会に参加していただいた。また、校内研について研究授業を参観後、研究協議会にも参加していただいた。</li> <li>②9月にPTAと学校運営協議会が共催という形で、保護者・地域を合わせて60名ほどの方が参加した「赤十字減災セミナー」を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な機会を通して学校の教育活動の実際の様子を見ていただいたことで、理解を深めていただくことができた。また、話し合いに参加していただいたことで、教職員との関係を深めることもできた。</li> <li>②講義だけでなく実技も取り入れたことにより、実際に災害が起きた場合に、自分たちでできることに対する理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な行事などの参観を通して、提案された内容を実際の教育活動に生かしていくことで、さらに充実した教育活動を進めることができるようにしていく。</li> <li>②防災に関しては、各町会などでも取り組まれている。そうしたいろいろな組織で行われている訓練を一体化して地域全体の取り組みとして実施できるように学校運営協議会(学校)・青少対・町会などが協力できるように働きかけを進めていく必要がある。</li> </ul>
	散田小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上のための読書活動推進</li> <li>②横山地区(横山中学校、横山第二小学校、散田小学校)の共通した生活スタンダード、学習スタンダードの定着のための行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①親子読書活動で、児童に対する賞状の授与</li> <li>②横山地区スタンダードを学校運営協議会会長、校長の連名で印刷、配布することでの周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の読書量は増加した。</li> <li>②横山地区スタンダードを周知することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の読書量は多くなっているが、読書をしない児童や目標の冊数を読むことができない児童がいる。また、学力向上との関係性を十分に把握できていない。この2点が課題であり、次年度改善していくべき方向性である。</li> <li>②横山地区スタンダードの内容を周知することはできたが、内容の徹底については不十分であり、学校、保護者、地域が一体となって取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

		開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成28年度指定	山田小学校	12回	①学校の教育活動の説明、報告、協議及び助言 ②学校運営上の課題に対する助言 ③平成29年度教育課程の説明と助言	①学校の教育計画にある実施要項などをA4版1枚程度に分かりやすくまとめ直し、活動のポイントを示すことによって、学校運営協議会委員から具体的な指摘を受けることができるようにした。 ②月ごとに、学校が直面している課題を報告するようにすることで、様々な分野の学校運営協議会委員から解決していくための助言をもらえるようにした。 ③次年度の取り組みを具体的に説明し、助言並びに承認を得るようにして、開かれた学校づくりを目指すようにした。	①毎回、学校運営協議会委員と質疑応答を行い、意見交換をしたことで、より良い活動へと具体的に改善していくことができた。また、学校の取り組み方を学校運営協議会委員に共通して認識してもらうことができた。 ②学校が抱える課題などを学校運営協議会委員に認識してもらうことができたことで、地域と学校との連携を深めることができたとともに、助言や援助をもらうことができた。 ③「知・徳・体」における具体的な方略と方策を伝えることで、学校の目指す方向を認識してもらうことができた。	①質疑にやや重点が置かれてしまい、地域と学校との連携や地域人材の活用などという視点からの改善にはあまりつながらなかった。地域との関わりをどのようにしていくかが課題である。 ②地域と学校との連携を、各学級の運営に反映させていくための方策に十分に結びつけることができなかった。具体的な指導へどのようにつなげるかが課題である。